

第1稿に対する委員からのご意見

【資料1（差替え）】

該当箇所	ご意見	事務局案	補足
1-1 現状	「パート」が何をさすのか分かりにくい。パートタイム？セクション？	「パート」→「担当セクション」に変更	
	目次があったほうがよい	最終的に構成がまとまった段階で検討	
構成について	<p>「市民協働の推進」を大分類に 「3レファレンス」「4多様な学習機会の提供」を「5利用者に応じた図書館サービス」に入れる。 「2資料収集・保存」「7職員」を「バックヤード機能」として、大分類2、小分類6にまとめる。 【イメージ】 1概要 2利用者へのサービス(レファレンス、多様な学習機会の提供、利用者に応じたサービス、市民協働事業等の推進) 3バックヤード機能(資料収集・保存、職員(研修、人材育成))</p>		
1.全般	「全般」よりも「概要」の方がよい		
	「中央図書館機能」が突然出てくる。「対応策」「新体制」「新図書館構想」などの方がよい。必要性が伝わりにくい。		
.現状	「現状」の説明を詳しく。今の倍くらいの分量がよい。事例ではなく、何をめざして行っているかを明記すべき。		
現状と課題	「現状」と「課題」は不要。今の図書館の体制の良い部分が全く書かれていない。課題ばかりが挙げられていて、負のイメージが伝わる。	「現状」と「課題」から「現状」と「めざす方向」に変更 2つを矢印でつないで関係がわかるように修正	
	分散と分担が混同されている。分散は課題ではないのでは？		
	現状と課題が繰り返し出てくるが、課題を無理やり発掘しているように感じる		
はじめに	図書館協議会で削減ありきを前提として認めたことになっている。前提として施設の見直しがあるのは分かるが、図書館協議会ではそれに対してどういった視点を大切にしたい中央館構想が必要かを訴える意見書にしたい。	「はじめに」の修正 施設再編の検討の必要性 から 中央図書館的機能の必要性 が生じ、中央図書館機能の検討に至った経緯を明確にする。	
	協議会の議論の内容を記録するのではなく、議論を通じて導きだされる豊中版中央館構想についての答えを書く方がよい	委員提案の「はじめに」の代案あり	
	公共施設の床面積2割削減という方向性に対し、民間への委託により数字として削減がカウントされるようなことに危機感を持って対応するというストーリーに作り替えたほうがよい		
	地域館が充実してこそその中央館、地域館を充実させる為の中央館機能	「おわりに」を追加。以下の点を確認する文章を追記 ・効率化をめざしながらも、豊中市の図書館サービス総体の質を落とすまいと求める。	
	中央館構想が安易な図書館縮小の道具に使われない様にしていく意見書として、プロット自体を変える。		

はじめにと中身について	<p>「はじめに」とサービス毎の中身が繋がらない。「中央図書館の機能を考えるにあたっては、図書館資源や情報を集約することの目的が、地域館・分館のサービスをさらに充実するためであるという点を基本に据えることが大切」「これまでの豊中の図書館のあり方をふまえ、地域館や分館のサービスの充実とともに、専門性の高いサービスを長期的かつ安定的に提供していくことをめざす」という点がぼやけないようにしたい。</p>	「はじめに」の中に本文の構成及び内容の説明を追加	
	<p>ピントがボケていて、強調するところが見えない。(あれもこれもという感じ)。効率化を考える必要はあるがその中で大事に守っていく部分を出したい。</p>	本文についてサービス毎に記載していた「(今後に向けて)留意点・視点」を全般にまとめて記載	
	<p>図書館のあるべき姿や図書館職員に求めること等、中央図書館機能と地域館・分館機能以外の要素が盛り込まれている。</p>		
7.職員	北摂や他府県の図書館との人事交流		
	<p>本の流れ、受け渡し場所、再配置の検討 例: 老人センター中心の再配置、公民館中心の再配置、子ども関連の窓口近くに子どものスペースと本のコーナー等</p>		
2-4.地域館・分館機能4行目	<p>「各館の規模に応じたレファレンスコーナーを設ける」 「各館の規模」が抽象的で、読みようで多様な解釈がでてくる</p>		<p>地域館・分館のレファレンスコーナーの規模は現状も館によって異なっている。分館と地域館でも異なるし、分館同士、地域館同士でも館の状況に応じて違いがある。</p>
5-4.地域館・分館機能5行目	<p>「エリア内の学校やこども園等、施設や団体からの資料依頼やレファレンスに対応する」 中央館と地域館双方への連絡が必要とも受け取れる →中央館の調整、指示を受け、エリア内の学校やこども園等、施設や団体からの資料依頼やレファレンスに対応する。</p>	「エリア内の施設や団体からの資料依頼やレファレンスの相談窓口として、中央館と調整し、対応する。」	<p>地域館・分館は、一番身近な図書館としての相談窓口の機能を持つ。資料依頼やレファレンス等の相談を受け、最適サービスを中央館と調整を取りながら提案する。</p>
	<p>雑型として、企業で利用されているバランスト・スコアカード(BSC)を紹介 BSCとは、価値創造につながるような情報資源の蓄積が財務的尺度では適切に反映されないことから1990年代に生まれた新しい業績測定モデル。</p> <p>まず、視点が4つ、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.財務の視点→市民に対してどのような成果を提供すべきか 2.市民の視点→どのような市民にどのような価値を提供するか 3.バックヤードの視点→市民の満足度を引き出し、利用に結びつけるためにどのような機能を達成することが必要か 4.学習と成長の視点→機能が期待通りの成果を発揮するため、組織はどのように学習し、改善すべきか <p>でビジョンをまず示し、以下の順番でプランを提示していきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.戦略マップの作成→ビジョンの戦略を達成するためのシナリオ。各アクションの因果関係や関連を図式化し、戦略の全体像を示す 2.戦略目標の設定→ex.新規の図書館利用者の勧誘 		